Go-Ahead

3

10 年研 第 3 回

学校教育相談について

アンケートの感想から

10 年経験者研修第 3 回は豊中市の教育相談チームに協力いただき、『学校教育相談について—子ども理解と組織的な対応—』というテーマで講義、演習を行いました。久しぶりの共通研修でしたが、難しい事例の検討にあたり、皆さんの経験や知恵の深さ、豊かさを改めて感じました。

性暴力の事案にかかわった経験がなく、今回経験のある先生のお話がきけて、心のケアの大切さがよく分かった。他のいじめ事案などの場合以上に被害・加害児童への心理面への配慮があるなあと感じた。自分 1 人では見わたせていなかった視点が今日いくつも発見でき「なるほど！」と気づかされました。

今回準備された事例は、小・中学校共に性被害にあってしまった男子への対応でした。

解決が難しい教育相談もチームで慎重に対応すれば、良い方向に行く信じながら、今日教えて頂いたポイントを参考に対応していきたいと思いました。どんな事例でも被害者中心に考える必要性、心のケアを大切にして対応していきたいと思います。

事実を確認することに重点を置きすぎて、加害者に嘘をつかせたり、被害者を置きざりにしないようにというところに、とても納得した。自分の経験からもそうなりかねないと思い、気を付けようと思った。

指導する時に被害者生徒の心のケアを第一に考えないといけないというのはわかっているけど、どうしても加害生徒の指導に重きをおいてしまうことがある。自分一人ですべてをやろうとせず学年の教職員や外部機関と連携しながら指導方針を決めて、それぞれの役割をしっかりと認識して指導を進めていきたい。

学校での指導というと、ともすれば加害児童生徒の指導に意識が行きがちですが、被害児童生徒のケアを中心に考えることの大切さに改めて気が付いた人も多かったようです。また、被害者、加害者の周りにいる人たち、例えば、保護者や両者それぞれに近い教職員や友だちなどを、『図』に示しながら考えることによって、漏れのない対応を可能にし、問題解決に向けてのチーム作りにも役立つことに気が付きました。

事例を元に、ワークショップを取り入れた内容だったので、分かりやすく、考えやすかったです。講師の先生の話も具体的に聞きやすく、理解しやすかったです。空間的な広がり、時間的な奥行きをもった対応の仕方が、イメージできたように思います。いいお土産も頂けたので、いじめ事象等でも活用したいと思います。ありがとうございました。

この研修では、事例の理解もさることながら、ワークショップを通して議論を『見える化』するというスタイルも重要でした。いじめや不登校など、学校で起きる様々な出来事に対して、学校というチームで、経験や知恵を出し合い、紙やホワイトボードなどで会議を『見える化』しながら対応すれば、ピンチをチャンスに変えることも可能ではないでしょうか。また、時間的な奥行きを考え、長期的な視点を持つことで、問題が単なる問題から、子どもたちや教師にとっての大切な学びにかえられます。今回の事案であれば、異性、同性に限らず、好きな人への気持ちの伝え方や、性同一性障害などの性的マイノリティーなどの人権教育にもつなげられるかもしれません。

今回は性被害というテーマでしたが、対応の方法はいじめや他の事件?にも使えるものだと思います。次に何かあった場合はシートを使わせていただきます。ありがとうございました。

一を聞いて十を知る。今回は 1 つの事例から多くのことを学ぶことができました。グループワークの方法は同僚との協働の幅を広げます。また、会議だけでなく、授業、学級にも使えそうです。

鎌田先生も開講式で「自分のテーマにこだわる 1 年にしてください」とおっしゃっていました。テーマをはっきりと自覚した先生もいらっしゃるようです。

今日のようなグループワークと問題解決のテクニックや科学的な面を学びたい。

ファシリテーターとしての立ち位置、研究してみてください。